

●制作

船首（みよし）を巡る廻廊 —東京湾岸部における新たな水上拠点の提案—

澤崎 ゆりか 園芸学部 緑地環境学科 環境造園学プログラム（主指導教員：霜田 亮祐）
SAWASAKI Yurika

1. 研究の背景と目的

東京の都市部は、狭い範囲に人や建物が集中しており、広い土地を確保することが困難である。一方で、湾岸部は、交通の便が悪い場所もあるものの、茫漠とした土地が残されている。土地不足が問題になっている東京で、これらの土地を活かす方法を探ろうと考えた。そこで、今回、フェーズフリーの概念を組み込んだ広域避難場所を造ることにした。フェーズフリーとは、日常生活でも災害時でも使えるデザインのことである。ランドスケープデザインの事例はまだ非常に少ないが、巨大地震に見舞われるおそれがある昨今において、災害に強い街を築くために重要な概念と考える。

本研究では、地理条件を日常時でも利用価値の高い広域避難場所の提案を行い、新たな土地利用の可能性を探りたい。

2. 対象地

東京都江東区夢の島から新砂にかけての区域は、周辺に木造住宅密集地域が存在しない。そのため、大地震発生後の火災の延焼リスクが比較的低い地区内残留地区に指定されている。津波についても、地形の影響で最大でも高さ3mほどだと予想されている。災害リスク以外の観点では、舟運を活かした海上輸送が可能である。東京湾で近年運用が始まった水上タクシーを利用することで、地域の魅力向上や他地域との連結などが期待できる。

3. 調査と分析

文献調査では、フェーズフリーの考え方についての学習を通して、本研究で扱う課題を設定する。次に、現地調査に行き、地理的特徴を捉えた。

3-1. フェーズフリーについて

フェーズフリーとは、日常生活でも災害時でも使えるモノやサービスの考え方である。基準を満たしていると判断された場合、一般社団フェーズフリー協会による認証を受けることができる。ランドスケープデザインや建築においては、東京都の南池袋公園と愛媛県の今治市クリーンセンターがある。防災拠点を兼ねた地域の憩いの場や、炊き出し機能のあるカフェレストランなど、日常時と非常時両方のQOLに配慮している点が評価されている。日常時と非常時に提供する価値については、同様の価値をもたらすもの、別の価値を提供

するもの、利用方法の提案で日用品に新たな価値をつけるもの、などの幅広い種類がある。種類を先に決めてしまうと、対象地のもつ可能性を狭めてしまうと考えた。対象地の地理的特徴に合わせてデザインし、表裏一体となる形で防災機能を盛り込む方針にした。

3-3. 現地調査

夢の島側は、標高5~10mと港湾部にしてはやや標高が高い。新木場駅から徒歩で約10分かかかる。周辺は、夢の島公園、サイクリングロード、バーベキュー場など屋外活動施設が充実している。若洲方面に南下すると、海岸性の植生やサギ類が見られた。

新砂側は、標高約3mである。最寄りの南砂駅から徒歩30分以上かかり、他の公共交通機関もなく、アクセスが悪い。荒川サイクリングロードの終点と地盤沈下観測所がある。

実際に歩いてみたところ、非常にスケールが大きく、徒歩移動よりも自転車移動が適していると感じた。自転車は、徒歩より速く移動でき、小回りが利くことから、災害時でも役立つ移動手段として利用できると考えた。



(図1：サギ類)

4. 提案

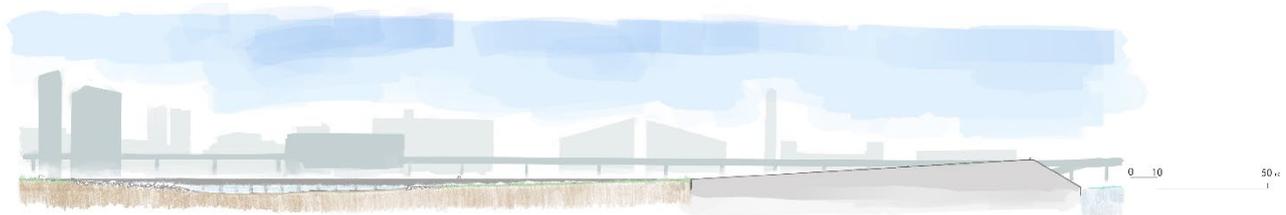
緊急時には避難、物資輸送、救援の拠点となる水上ステーションを造る。さらに、対象地を網羅する形で、非常時に人を導き、物資等の輸送に利用できる道を造る。この道は、普段から散歩道やサイクリングロードとして利用可能である。

引用文献

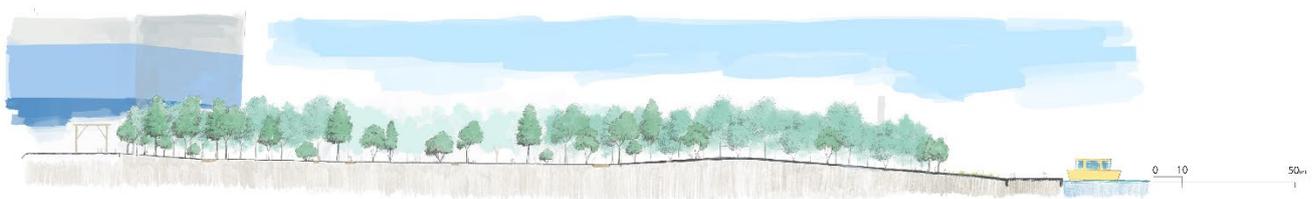
- 一般社団フェーズフリー協会 フェーズフリーコンセプトサイト <https://phasefree.org>
- 東京都防災 HP 南海トラフ巨大地震等による東京の被害想定



平面図



断面図 1



断面図 2